

中学校 第1学年2組 外国語（英語）学習指導案

令和2年11月9日（月）5校時

学級 1年2組

授業者

場所 図書館

1. 単元名：New Horizon1 Unit8 イギリスの本 part1 どこにあるかをたずねよう

2. 単元の目標：

- ・ペア・グループワークにおいて、間違えることを恐れず英語を使って積極的に話そうとしたり相手を意識して主体的に英語を用いて書こうとしたりしている。

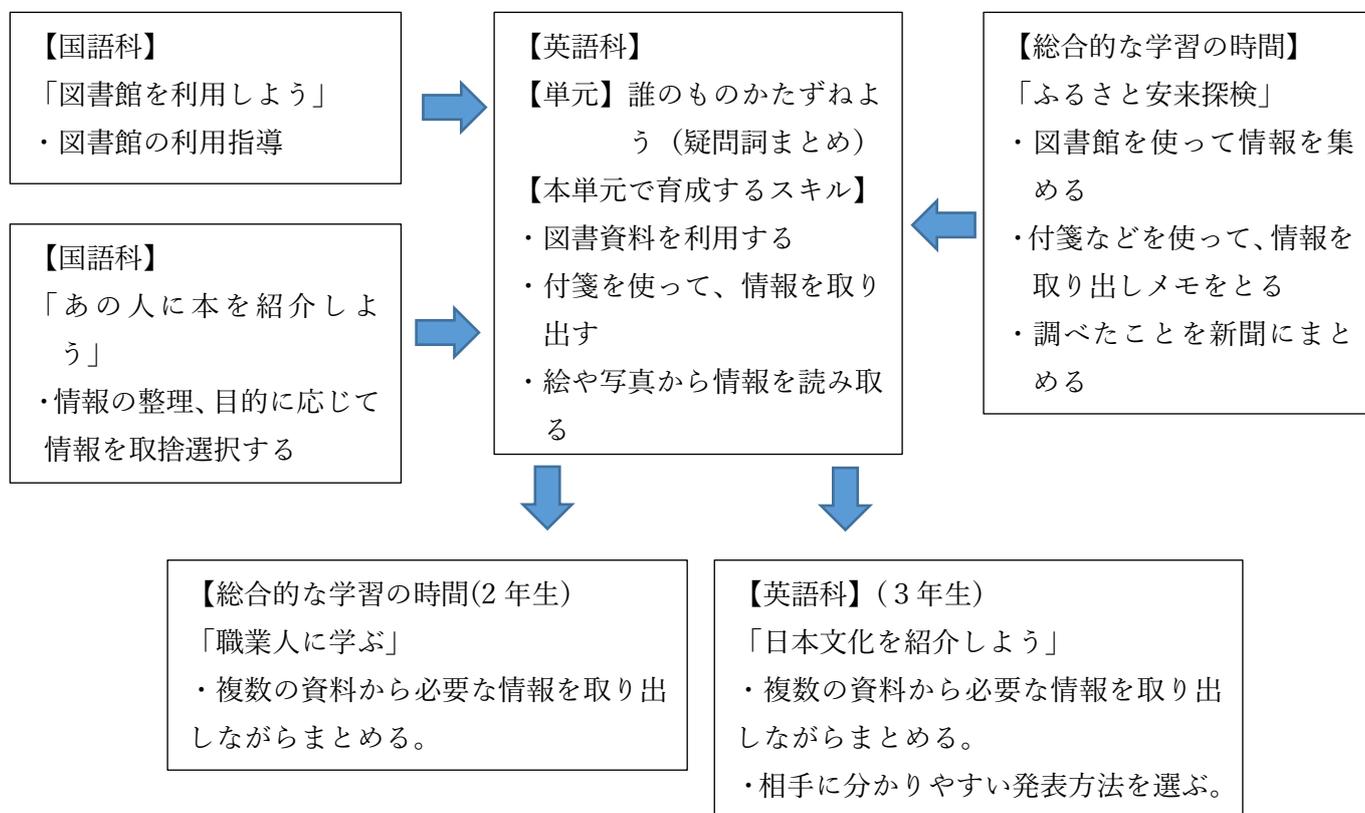
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・絵本を見ながら、どこにあるかなど疑問詞を使って質問できる。【外国語表現の能力】

- ・人称代名詞の目的格を用いた英文を正しく読み取ることができる。【外国語理解の能力】

- ・疑問詞 where, whose を用いた文の構造を理解する。【言語や文化についての知識・理解】

3. 単元構成モデル



4. 単元について

(1) 本題材は、Winnie-the-Pooh や、The Tale of Peter Rabbit、Harry Potter などの日本でも馴染みのあるイギリスの文学作品が取り上げられている。日本のアニメにもいくつかイギリス文学原作のものがあり、生徒に外国の文学に触れさせる良い機会となる。また、テレビ電話を利用して海外にいる知り合いの人と英語で対話をする場面もあり、現代社会に生きる生徒にとって身近であり、また、これから生活する上での実用的な学びにもなると思われる。言語材料としては Where…? / Whose…? / 代名詞の目的格を含む文が扱われており、身の回りのことを問答するのに適した教材である。コミュニケーション活動を多く取り入れることのできる教材である。

(2) 生徒観…省略

(3) 前単元から継続して学習している疑問詞 (What～? How many～? What time～? How old～? Which ～? Where～?) のまとめとして、質問を作成したり質問を聞き取って相手に伝わるように答えたりするような活動を取り入れたい。また、本単元で取り扱われているイギリス文学を始めとする、様々な国の絵本を使用し「本物」に触れさせながら、教科書の世界をより自分の身の回りのこととして感じられるように導いていきたい。これまでも図書館の利用が多いこの学年の生徒にとって、様々な国の絵本との出会いを通してさらに視野を広げる機会となるようにしたい。また、すでに英語に苦手意識を感じている生徒がいることから、生徒の得意を引き出すために授業の中で1つの技能に固執せず、いかに4技能をバランスよく取り入れるかが大切であると考えます。また、生徒間の信頼関係を構築する上で、授業での意図的なペア活動やグループ活動を通して生徒間の信頼関係を深める一助としたい。

5. 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
① ペア・グループワーク において、間違ふことを恐れずに積極的に英語を使って話そうとしている。 ② ペア・グループワーク において、相手を意識して主体的に英語を用いて書こうとしている。	① 絵本を見ながら、どこにあるかなど疑問詞を使って質問できる。	② 人称代名詞の目的格を含んだ英文を正しく読み取ることができる。	③ 疑問詞 where を用いた文の構造を理解している。 ④ 疑問詞 whose を用いた文の構造を理解している。

6. 指導と評価の計画

時	○ねらい ・主な学習内容	評 価				
		関	表	理	言	主な評価基準 (評価方法)
1	○本単元で身に付ける文の構造や大まかな内容を知る。 ・これまでの復習として、様々な疑問詞を使ったクイズに答える。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○疑問詞 where を用いた文の構造を理解する。 ・Where～? を使って相手と問答する練習をする。 ・教科書本文を通して、where の使い方を理解する。 ・教科書本文を聞いたり読んだりして内容の概要を理解する。				①	疑問詞 where を用いた文の構造を理解している。 (後日ペーパーテスト)
2 本 時	③ ○ペア・グループワークにおいて、絵本を見ながら相手を意識して、主体的に英語を用いてクイズを書こうとしている。 ・その状況に応じて使用する適切な疑問詞について理解する。 ・絵本の一場面を見ながら疑問詞を用いてクイズを作る。(ペア)		②			絵本を見ながら、相手を意識して疑問詞を使ったクイズ形式の英語を書こうとしている。 (観察・ワークシート)
3	○ペア・グループで間違いを恐れず英語を話している。 ・That's right. I see. など既習表現を用いながら生徒同士でクイズを出したり答えたりして、英語でやりとりをする。(ペア・グループ)		①			ペア・グループで間違いを恐れず英語を話すことができる。 (観察・ワークシート)
4	○疑問詞 whose を用いた文の構造を理解する。 ・Whose～? を使って相手と問答する練習をする。 ・教科書本文を通して、whose の使い方を理解する。 ・教科書本文を聞いたり読んだりして内容の概要を理解する。				②	疑問詞 whose を用いた文の構造を理解している。 (後日ペーパーテスト)
5	○人称代名詞の目的格を用いた英文を正しく読み取る。 ・人称代名詞の目的格を使って相手と問答する練習をする。 ・教科書本文を通して、人称代名詞の目的格の使い方を理解する。 ・教科書本文を聞いたり読んだりして内容の概要を理解する				①	人称代名詞の目的格を用いた英文を正しく読み取ることができる。 (後日ペーパーテスト)
後 日	【ペーパーテスト】 □疑問詞 where や whose や、人称代名詞の目的格についての理解をみる問題				① ②	ペーパーテスト

7. 本時の学習

(1) ねらい

○絵本を見ながら、疑問詞（既習の表現）クイズを作成し、相手を意識して主体的に英語を書こうとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準	評価方法
導入 1分	1、英語であいさつをする			観察
復習 4分	2、ペアで Q&A 活動をする	・ 疑問詞の復習に重点を置く ・ テンポよく行う		観察
5分	3、本時のめあてや流れの確認をする			観察
めあて：絵本を使って、相手に伝わるように疑問詞クイズを3問以上作成し英語で書こう。				
	教師の例を見て、本時の活動の流れを確認する。 場面に応じてどの疑問詞を活用するのがよいかを知る。	・ 本時の流れや学習のポイントを理解しやすいように、細かい説明は避け、教師が例を提示する。 ・ 視覚的な補助として ICT を活用する。		
25分	4、前時に選んだ絵本の各場面を見ながら、ペアで疑問詞を使った質問を考える 英語で考える前に、付箋を活用して必要な情報を日本語で取り出す。 what, how many, which, where など、様々な疑問詞を使って質問を考え、ワークシートに記入する。 3問以上は必ず完成できるようにする。質問に合わせて正しい回答やクイズを出題するときの工夫の仕方を考える。	・ 絵本の挿絵について質問を考えるが、レベルアップとして絵本の文章について質問を考えてもよいことを伝える。 ・ 絵本について助言を求める時は、学校司書に声を掛けるように促す。 ・ 教師は机間指導をし、その都度生徒が作成する質問の単語以外の正確性をチェックする。 ・ 途中、ペアの良い事例を取り上げ、全体に伝えることで、よりクイズの内容や出し方が深化するようにする。	場面に応じた疑問詞（既習の表現）を用いて、相手に伝わるようにクイズを3問以上作成し、英語で書こうとしている。	観察 ワークシート

10分	5、グループになり、ペアで作成したクイズを出し合う（次の時間に向けての練習） 相手ペアの絵本のひと場面を見ながら、ペアで相談をしながら質問に応じた英語で答える。単語もしくは英文で、即興で答える。	・ That's right. Yes. /No. Perfect. など答え合わせのやりとりはすべて英語でするように促す。 ・なるべく英文で答えるように促す。		観察
5分	6、まとめと振り返り まとめとして、教師が提示した一場面を見て、自ら疑問詞を使ったクイズ（とその答え）を書く。	・教師は机間指導で書けない生徒にヒントを与える。 ・ワークシートは回収する。		ワークシート

(3) 評価

	十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断できる状況	支援を要する状況の手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	絵本の場面を自ら選び、様々な疑問詞を使って相手を意識したクイズを主体的に6問以上書こうとしている。	絵本の場面を自ら選び、疑問詞を使って相手を意識したクイズを3問程度書こうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が机間指導をしながら、場面にあった疑問詞を提示する。 ・ペアと協力してクイズを作成するように促す。またペアの意見を参考にしながらクイズを作成するよう促す。 ・教科書やQ and Aなどを参考に、疑問詞の文の構造を確認しながら活動させる。

8、研究の視点

- ・本単元のねらいを達成するために、図書館資料を利用したことは有効であったか。
（間違いを恐れずに積極的に英語を使おうとする）〔関心・意欲・態度〕
（疑問詞を用いた文の構造を理解し、活用できる）〔知識・理解・表現〕
- ・英語学習への意欲を高めたり、定着をはかったりするために、どのように図書館を活用していくことができるか。

9、研究協議の概要

参加者	校内 10名、校外 13名 計 23名
授業及び研究協議の概要	絵本を活用し、ペアやグループで「～はどこにあるか」という問いとその答えを英語で会話する授業を行った。教科書にとどまらず、図書館の資料を用いることで、生徒の「表現したい」という意欲につながった。また絵本の提示の仕方工夫を加えることで、学習活動が活発になった。途中で文章を作る際の絵本の見方のヒントを、司書が必要に応じて与えることで、絵本の読み取り方や絵の解釈の仕方の幅を広げた。